



Plan Do Check Action

「聞くことを大切に」

朝日町保小中一貫教育校

朝日町立朝日中学校

校長 梅澤 健一



久しぶりに新幹線で東京へ行った。車内で多くの人がスマートフォンを操作したり、音楽や動画を視聴したりしていた。グループで乗っていても各々がスマートフォンを操作し、小さい子供はイヤホンを付け動画を視聴していた。今は、これがスタンダードだと改めて感じた。インターネットやスマートフォンが生活を便利にしたのは間違いない。スマートフォンがあれば買い物ができるようになり、人と関わりが少なくても生活をしていける時代になった。しかし、SNSを介した問題も多い。「かわいくない」は、SNSの講演によく使われる言葉だ。発信者と受信者の意味の取り違いから起きるトラブルの原因の例である。話の流れを理解しないまま言葉だけを捉えたり、伝える側と受け取る側の意識がずれたりすることによって、思いの伝わり方が真逆になることがある。また、最近の話題で不思議だったのが「句点を使っている人が怖い」という内容だ。若者の中では「。」を付けることで命令調になるという捉え方だった。一般的に文の終わりには「。」を付けるが、SNSのアプリを使った対話は、音声のない会話という考え方のため付けないことが自然と考えているようだ。コミュニケーションは、「互いの思いや考えを伝え、理解を得ること」、「認識を共有すること」だ。どちらかに合わせるといふより、日頃から言葉でコミュニケーションを取りながら、相手のことを思いやって歩み寄ることが大切だ。

学校の役割の一つは、他者とのコミュニケーションを学習することである。現在、授業では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、問題解決学習に取り組んでいる。その問題解決のために、「個別最適な学び」として現地学習やインターネットを使用した調べ学習、そして今後はChatGPTを利用した学習で、効率よい学びが進んでいきそうだ。それに対して「協働的な学び」は他者との関わりの中で学びを深めていく。「聞くこと」で多様な考えを理解するとともに、改めて自分の考えを振り返る自己調整の機会となり、学びが深まっていく。しかし、現在は個々が自分の考えをまとめ、発信することに力を注ぎ、「聞くこと」が疎かになってしまい、話合いが深まらないと感ずることがある。

また、学校生活において、教師は子供に学習以外のことも多く伝達する。しかし、「伝えた」ことが「伝わった」ことにはならないこともある。教師が伝えたつもりでも、子供が理解できないようであれば、伝わったことにはならない。教師の使う言葉や抑揚の仕方、伝える順番や例を挙げる、時には視覚に訴え理解を促すこと等の工夫が必要である。また、子供の聞く姿勢や集中力といった「聞く力」も大いに関わってくるため、「聞くこと」を意識して指導することも必要である。

「聞くこと」に関しては教師にも当てはまることだ。教師は教えることや伝える立場にあるが、子供の話を聴き、子供を受容したり寄り添ったりすることは、子供を思いやることであり、関係性を築く手段である。学校において「聞くこと」を大切にすることは、コミュニケーションや学びの質を高めることにつながると思う。

今年度の研修会から

小中学校教育講演会 12月4日

講師：上越教育大学教職大学院教授 赤坂 真二先生
～ 指導力のある教師のやっていること ～

学級経営の構造化や教師の優先順位の設定、信頼の構築、そして教室内の縦糸と横糸といったトピックについて、具体的で分かりやすく、実践的な講話をいただきました。学級経営の基盤となる「子供たちを温める」ことの大切さや児童生徒の関わりについて考える機会となりました。



【アンケートから】

- ・学力向上の土台となるのは、やはり学級経営であると改めて実感した。
- ・人と繋がれず寂しい思いをしている子供が多い、とお聞きし、納得するとともに、子供たちにとって本当に大切なことは何なのか、優先順位を間違わないようにしていきたい。
- ・生徒との関わり方を考えさせられた。自分が時代に合わせてアップデートする必要性を感じた。
- ・学級経営は子供との関係性次第であることを改めて思い知った。Q-Uの結果も生かしつつ、セルフチェックで不十分だった項目については自身で研鑽していかなくてはと思えた。

小中生徒指導研修会② 1月19日(金)

講師：富山県総合教育センター 教育相談部 子ども育成担当
研究主事 杉森久美先生、大野沙奈恵先生

第2回生徒指導研修会を開きました。「ケース会議」のあり方について、グループワークを中心に学びました。今回の研修会には、生徒指導主事やカウンセリング指導員の先生方だけでなく、各校から数名ずつ参加していただきました。小学校の事例をもとに、「エピソードプロセスを用いたケース会議」の演習を行いました。役割演技を通して、チームによる支援のあり方について学ぶことができました。「ケース会議」というと少し身構えてしまうイメージをもつ方もおられるかもしれませんが、今回教えていただいた「エピソードプロセス」は、「こんなことがあったんだけど、どうしたらいい？」と気軽に情報共有、意見交換ができる場として各学校や学校間で活用していけるとよいと感じました。参加された先生方からも大変よかったと高評価をいただきました。各校でも「30分でケース会議」にぜひ取り組んでみてください。「エピソードプロセス」の資料等は、町教育センターにあります。また、先日各校へも資料データを配布しましたので、ご活用ください。



朝日町教育委員会派遣 内地留学を終えて

「内地留学を終えて」

あさひ野小学校

高澤 朋美

近年、通常学級における「気になる子供」の割合は、増加傾向にあると言われていています。本校においても、その傾向はあると感じています。

今年度、1学年を担当し、学校生活において「気になる子供」にはどのようなつまずきがあるのか、そのつまずきにどう支援していけばよいのかを自分なりに考えながら、子供たちと向き合ってきました。子供たちの実態を理解したり支援を考えたりする上で、まだまだ、学ぶべきことが多くあると感じています。

昨年度から、朝日町では保小中一貫教育が始まっています。私は、今年度「幼保小の架け橋プログラム」の存在を知りました。それらに取り組んでいく中で、このカリキュラムがつけられた理由や目的等についても理解する必要があると感じました。

そこで、入学当初の「気になる子供」への効果的な支援の在り方を検討するためには、保育の現状や年長児の状況について知る必要があると考えました。この3か月間の研修は、普段学ぶことができない「幼児教育」について、多くのことを知ったり考えたりすることができた貴重な機会となりました。特に年長児の保育について焦点を当てて調査研究を行い、年長児の保育の実態や幼児期の「気になる子供」への支援、保育に関わる方々の考え方について知ったことで、入学当初の子供のつまずきへの支援の在り方について検討することができました。

今回の研修を通して、保育内容や年長児の実態について知ることは、接続期の子供たちへの理解やよりよい支援の在り方につながるということを実感しました。学んだことを自分なりに実践し、他の小学校教員に伝え広げながら、引き続き、よりよい保小連携の在り方について模索していきたいと考えています。



【年長児と1年生の交流】

	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
朝の時間	絵本読み、折り紙、お絵かき、ぬりえ、けん玉				
	朝の会				
1時間目	生活(1) なかよしになろう ・手遊び、ゲーム等	算数(1) なかまづくりとかず①	算数(1) なかまづくりとかず② ・かずをかこう	国語(1/3)生活(2/3) どうぞよろしく① どきどき わくわく 1ねんせい ・名前カードを渡しながらかす。	国語(1) なんて いおうかな②
2時間目	国語(1) いいてんき②	体育(1) なかよしになろう ・ならびっこ ・ゲーム 等	国語(1) 1年生を迎える会の練習 ・自己紹介等 (体育館)	算数(1) なかまづくりとかず③ ・かぞえよう	体育(1) 体ほぐしの運動遊び②
3時間目	音楽(1) うたっておどって なかよくなるう① ・校歌	道徳(1) みんなでのたのしく	生活(1) がっこうだいすき ともだちと がっこうを たんけんしよう	1年生を迎える会(1)	図画工作(1) ねんどとなかよし
4時間目	学活(1/3)国語(2/3) 帰りの準備 読み聞かせ	国語(1) 1年生を迎える会の練習 ・自己紹介等 (教室)	学活(1) 給食当番の仕方	国語(1) なんて いおうかな① 給食の準備をしよう	学活(1) タブレット端末の使い方 給食の準備をしよう
5時間目		学活(1) 帰りの会の進め方	国語(2/3)学活(1/3) こんなもの みつけたよ① 帰りの準備	体育(2/3)学活(1/3) 体ほぐしの運動遊び① 帰りの準備	生活(2/3)国語(1/3) がっこうだいすき ともだちと がっこうを たんけんしよう あつまって はなそう
帰りの会	帰りの会				

【スタートカリキュラムの実践例】

令和5年度新規購入図書を紹介

あっという間に、令和5年度も残りわずかとなりました。先生方におかれましては、今年度はどのような一年だったでしょうか。年度末に向けて、これまで以上に目の前の仕事に追われる毎日かとは思いますが、少しだけ時間を見つけて読書をしてみませんか？



今年度教育センターでは、35冊の教育関係図書を新規購入しました。忙しいときだからこそ、読書ほっと一息。そして、心の栄養を蓄えましょう！ぜひ、教育センターにお立ち寄りください。また、「こんな本を置いてほしい」ということもお聞かせいただけるとうれしいです。

一年間、ありがとうございました！

令和5年度朝日町小中学校研修会 委員会・調査員の皆さん

◇朝日町教育センター運営委員

小中学校長会	代表	梅澤 健一
小中学校	代表	竹内 静
小教研	代表	大森 祐子
教頭会	代表	上田 勝
教務主任会	代表	宮島 誠

◇情報教育研究調査員

さみさと小学校	上田 勝 (委員長)
あさひ野小学校	清水 颯太
さみさと小学校	吉島 大貴
朝日中学校	舟本 祐

◇郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	横山亜希子 (委員長)
あさひ野小学校	鹿熊 康平
さみさと小学校	秋元 慧
さみさと小学校	大藏 慶子
朝日中学校	新田 昌司
コーディネーター	水野瑠美子

◇学力向上推進委員会

朝日中学校	川田 彰 (委員長)
あさひ野小学校	沼田 峻 (国語・算数)
さみさと小学校	松井和貴子 (国語・算数)
さみさと小学校	金森 忍 (外国語)
朝日中学校	小坂 健太 (国語)
朝日中学校	山田 智徳 (数学)
朝日中学校	吉田亜沙奈 (英語)

◇朝日町小中学校児童作品展実行委員

さみさと小学校	竹内 静 (委員長)
あさひ野小学校	高澤 朋美
さみさと小学校	鍋島三彩子
朝日中学校	岩田 寿浩
朝日中学校	大澤 志織

発行：朝日町教育センター

〒939-0743 富山県下新川郡朝日町道下 1053-1

TEL/FAX (0765)83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

<https://center.asahischool.jp/>